

第1回懇話会の結果を踏まえた今後の議論

[テーマ①] 地元代表者

○但馬・京丹後地域が描く将来像の実現に向け、但馬空港をどのように利用したいか。どうあってほしいか。

[意見]

- ・地元は首都圏直行便を飛ばしたいという強い思いでいる。小型機で困難であれば、**ジェット化**すべき。
- ・但馬の観光は関西への依存度が高い。関西圏の人口が減少していることから**関東圏とつながる**意味がある。
- ・豊岡市は小さな世界都市を目指しており、世界との窓口である**羽田への就航**を目指したい。
- ・例えば**名古屋、高知、福岡**などへ週2日程度、また海外へは**韓国**だけでも路線ができればずいぶん地域が活性化するのではないか。
- ・ビジネス面ではかばん業界を中心に**海外とのつながり、関空へのアクセス**を望んでいる。理想は但馬から**直接海外と繋がる**ことである。
- ・**神戸空港を国際化**し、神戸-但馬を繋ぎ**但馬から世界へつながる**べきだ。但馬だけの問題に留めずオール兵庫の大きな視点で考えていくべきだ。
- ・**定時の離着陸**で目的地にも時間どおりに着けば安心感がある。
- ・**便数の少なさ、就航率の悪さ**が改善されればビジネスに活かせる。
- ・**災害時の救援拠点**としての整備を望む。
- ・機能強化の検討にあたっては、**費用対効果**を見極め、**合理的な投資**であるかの検討をお願いしたい。
- ・京丹後市の発展にとって但馬空港は不可欠。今後も**インバウンドの獲得**に取り組みたい。

[テーマ②] 有識者

○空港・航空業界の動向を踏まえ、将来の但馬空港はどうあるべきか。

○地域が望む但馬空港の姿を実現するために検討すべき事項は何か。

○今後の検討の参考にすべき空港はどこか。

[意見]

- ・城崎温泉を利用する外国人が4.5万人いるので、**いかに空港利用に繋げるか**を考えていくとよい。
- ・人口減少が進む中、但馬と京丹後地域は連携し、但馬・丹後・若狭の玄関口として**より多くの人を呼び込む**よう努めるべきである。航空利用者は地域にお客を呼べば自然と増える。
- ・航空事業者は、人口減少の中では外国人利用者の取り込みや、観光交流人口を増やさないと路線を維持できない。+α行く理由が必要である。その一つとなるのが専門職大学や演劇の街であり、遠くから行ってみたいと思わせる仕掛けで**需要の増に繋げる**ことが必要である。
- ・**関西空港、成田空港と結んで外国人を呼び込み**、首都圏とも繋がる方法もある。
- ・滑走路延長などの機能強化は非常に大きなプロジェクト。**コストに見合うメリット等**を議論する必要がある。
- ・小規模空港でも運営方法によって希少性を高めることができ、魅力的な空港になる。大きな空港ではできない**小さい空港ゆえの利用方法**もある。
- ・南海トラフ地震等の**自然災害に対するバックアップ機能を確保**するという観点から機能強化策を検討するべきである。
- ・自動車の自動運転、空飛ぶ自動車、リニア新幹線等、今後10年程で**人の輸送に係わる技術革新**が大きく進展する。これらの動きを視野に入れ、空港に求める機能とは何か見直す時期にある。
- ・コウノトリという素晴らしい**愛称を体現化**し、環境に優しく自然と共生する空港運営を目指すべきである。
- ・福島空港では、震災ツーリズムやクラフト教室等の取り組みを空港で行い、また魅力的な空港レストランも充実し、賑わいが創出されている。**地域と一体となった空港運営方法**について、福島空港の事例を参考にすると良い。
- ・**リニアが供用**すれば航空と鉄道の分担率は変わる。羽田への乗り入れはノーチャンスではない。
- ・但馬空港と地域とのアクセスについては、豊岡演劇祭で開発している**先端的なモビリティの活用**と結びつけることが肝要である。

[キーワード]

ジェット化

首都圏への就航

羽田直行便

多様な都市への就航

国際空港への就航
国際線の開設

定時運航

合理的な投資

就航率の向上

災害拠点として機能

インバウンドの獲得

便数の増加

航空機利用者増に向けた
取り組み

2次交通

空港運営方法

小規模空港の利用方法

輸送に関する技術革新

資料1

(第2回懇話会の議論)

滑走路の延長

就航率の向上

新たな路線展開

(次回以降議論)

需要予測

費用対効果分析

今後も創意工夫を凝らしながら、
継続的に取り組むべき事項

利用促進・需要の
取り込み

空港の多面利用・
賑わいづくり

2次交通の確保・
充実

機能強化の方策